

詠む広場

毎日俳壇

片山由美子 選

小川 軽舟 選

西村 和子 選

井上 康明 選

名を競ひ味を競ひて今年米

明石市 吉室 奨

△評▽昨今人気のブランド米は、もちろん味が第一ではあるが、そのきらびやかな名前を競い合っているように見えなくもない。

家庭訪問済みで笹百合持たさるる

和歌山 神野 一馬

△評▽家庭訪問先でササユリをもらってしまった。ありがたいような迷惑なような、複雑なところ。

由布岳に飛行機雲や秋高し

大分市 赤峰 宏史

牛が牛押して下りぬ牧場

平塚市 八木 次郎

門灯をすこし早目に夕化粧

米子市 岩水 節子

まだ翅の動く蜻蛉に蟻たかる

甲賀市 藤田 啓子

マンションの改修遅々と蟬雲

春日市 林田 久子

糞虫の糞のごときが欲しき夜

大阪 芹澤 由美

白壁の美術館建つ豊の秋

大阪市 隠樹ノリエ

居酒屋の開店準備夕月夜

池田市 後藤 和豊

銀漢や風の峠の車中泊

横浜市 吉野 暢

△評▽キャンピングカーに泊まる峠の一夜。頭上に広がる天の川と吹きすさぶ風に、自然の懷に抱かれる気分を味わう。

村ひとつ峠に返し星月夜

常陸太田市 館 健一郎

△評▽かつて峠から奪った自然環境を獣に返す。廃村の厳しい現実には星月夜が安らぐ。

灯火親し妻に言ひ寄るコマーシャル

東久留米市 夏目あたる

満月やガントリークレーン屹立す

相模原市 はやし 央

首相辞す丑三つ時の月赤し

東京 小池 清晴

縁側に妻呼び寄せる月見酒

彦根市 水野 隆雄

ここまではEUの国赤蜻蛉

ドイツ 広谷 朝子

虫集くボレロの長きクレッシェンド

町田市 練木 智美

秋風やEVカーは音もなく

海田市 岡 哲夫

紅葉且つ散る仲直りできなくて

東京 夏 野

猛暑なほ二百二十日を迎へても

神戸市 田中 忠士

△評▽連日の暑さを具体的に表した今年ならではの作品。うんざりしていることが読み取れる。今年だけであるよう祈りたい。

烈日の色そのままに百日紅

嘉麻市 堺 成美

△評▽100日間赤く咲き続けることからこの名がある。今年は100日たっても色あせなかった。秋揺るるのみに自慢の杣家かな

萩揺るるのみに自慢の杣家かな

秦野市 林 ち島

風やんでコスモスつまらなくなりぬ

茅ヶ崎市 古田 哲弥

風鈴も電話も鳴らぬ暑さかな

鹿嶋市 津田 正義

おしなべて浅き器の夏料理

さいたま市 根岸 曹子

とんぼうに見えざる壁のあるところ

熊谷市 松葉 哲也

ひと粒のいのち木の実の黒光り

立川市 大西 信子

秋刀魚焼く今日は可もなし不可もなし

秦野市 安藤 泰彦

秋の寺子も食堂開きけり

芦屋市 水越 久哉

吾亦紅風の言葉を知り尽くし

相模原市 小山 鞠子

△評▽風に吹かれて揺れるワレモコウは、楽し気で自由自在である。語りかけ誘ってくる風のことはを、知り尽くしている。

家一歩出れば旅人秋の雲

岸和田市 妙中 正

△評▽家を一歩外へ出れば、人は旅人となる。流れる秋の雲が、はるかな異郷へ誘う。

紅の長き炎や曼珠沙華

和歌山市 野田 芳一

行き行けど山山やほととぎす

唐津市 梶山 守

たましひに白桃ほどの重み欲し

東京 望月 清彦

青空や草立ち上がる野分あと

奈良市 伊東 勝

ふかふかと一畝つくり大根時く

市川市 高野 厚夫

ばさと鷺新涼の空揺らゆしく

鎌ヶ谷市 佐藤 紀子

夕日まだ秋の簾を離さるる

浜松市 久野 茂樹

一台の酒の誇りや生身魂

鹿嶋市 津田 正義

調べの鼓動

城島高原

星野高士

先日ある雑誌の企画で九州の旅に吟行で行ってきた。もともと九州は俳句の盛んなところで、私もこれまで何回となく行っている。

今回は私の希望もあり、大分県から福岡県の博多、そして柳川と巡ることにした。このあたりは虚子がかんりの回数で行っていて、虚子の句碑を訪ねるのが目的であった。

別府には医師であり俳人でもあった秋吉良文と妻の方子氏が暮らしていた邸宅「良閑居」がある。1862年築の古民家で、普段は一般に公開されていないが、今の当主の秋吉収氏との交流で心地よく公開していただいた。

良閑居はかつて肥後藩高田代官所であり、旧岡松住宅でもあったところ。秋吉夫妻は熱心な虚子や立子の応援者であり、多くの俳人らが集まる文化サロンになっていたという。今でも庭には鎌倉・由比ヶ浜の虚子庵から贈られたツバキが植えられていて、その時代をほうふつとさせていた。

・大夕立来るらし由布のかき曇

良閑居の掛け軸にあった虚子直筆の句は、その日に訪ねた城島高原の入り口に堂々と建っていた虚子、年尾 立子の親子句碑にも刻まれた。

虚子は別府に9回行ったと記されているが、なんと馬車を使って来たことされている。ちなみに良閑居と名付けたのは虚子本人。

旅吟はいさづ句が全てだということを確認できた旅であった。

(ほしの・たかし) 俳人